

- 1 山茶花を流す蛇口がありません
- 2 折り畳む餃子の耳の小春かな
- 3 日向ぼこ世界征服とか狙う
- 4 ミサイルを両手に持って編むマフラー
- 5 丸眼鏡曇らせ白菜食えと言う
- 6 鞆へと詰込むセーターの毛玉
- 7 青空を嵌め殺したる初氷
- 8 大吉や尾っぽかりかりと鯛焼
- 9 風花やタップダンスはこうかしら
- 10 風花風花おまわりさんにも私にも
- 11 白鳥が白くてどうでもよくて好き
- 12 サイレンの音調変わる寒さかな
- 13 極月のマールブルチョコが散らばった
- 14 湯たんぽたふたふあの日の間違いは秘密
- 15 クリスマスキャロル菓缶の煮えたぎる
- 16 恋人はサンタクロースなので留守
- 17 冬月へ返信し続ける帰路よ
- 18 穴のある硬貨歳末助け合い
- 19 政談や雨に曇の混じりたる
- 20 丸餅の丸が壊れてゆく怖さ
- 21 五体あり肩凝りもあり大晦日
- 22 雑炊を囲めば猫背友の会
- 23 福達磨転がし今日も何もなし
- 24 御降やジャングルジムの上に猿
- 25 駆け上がれば水仙肺に痛きかな
- 26 体積の分の春愁あふれだす
- 27 猫柳開いてみるために一つ
- 28 一線を越えて鞆より着地
- 29 残酷に椿の蜜を知りました
- 30 お借りした本の落書き蝶の昼
- 31 ことは秘密裏に沈丁花沈丁花
- 32 モルヒネの量増やしてよ風車
- 33 洗面器浮かべば回る水の春
- 34 この辺をつまめば辛夷咲くかしら
- 35 ちはやぶる神に絡まるいそぎんちゃく
- 36 地震のくに踏めば春月上りたる
- 37 骨壺のつると白し揚雲雀
- 38 車窓より投げた菜の花飛びあがる
- 39 鎮魂や穀雨の窓を夜がゆく
- 40 壺焼の網こんこんと震えけり
- 41 ゆく雲や藤房を喰いちぎりたき
- 42 緑さす裏の戸口を開けておく
- 43 原罪や石をはぐれば蟹あらわ
- 44 憂鬱な薔薇と書かれた既往歴
- 45 夏蝶の低くうつつの谷底へ
- 46 嫁に来て天道虫の腹は黒
- 47 鈴蘭の鈴を僻んでみたりして
- 48 胡瓜とか愛とか恋とか酔漬けとす
- 49 手渡しの蛍の少しこそばゆい
- 50 臍の緒の箱の黒塗り日雷

- 51 出目金が私の分も揺れている
- 52 自己決定権なき冷蔵庫で冷たい
- 53 枇杷の実の種を装填しておくか
- 54 不躰にものを言い合う搔氷
- 55 蝙蝠やバーテンダーの肘高く
- 56 罪状は夜に冷やした熟れトマト
- 57 髪洗われて吾は王の血を継ぎし者
- 58 強欲やくちなし一面に白し
- 59 うなみさなみ帽子飛ばされそうですわ
- 60 サルビアの記憶は吸ってしまいましょ
- 61 どかどかんと止まる極暑の洗濯機
- 62 炎天やカーブミラーを盲導犬
- 63 鬼百合の吐いた空気を吸っている
- 64 更衣室開けて涼しき塩素臭
- 65 3 kmを泳いで性愛の疲れ
- 66 噴水のナルシズムが許せない
- 67 刑法第三十九条かたつむりに殻
- 68 暑いわねえ壁もテレビも人の死も
- 69 ダチュラ咲く庭にダチュラの客が居る
- 70 へこ帯の選ぶ団扇の情痴の凶
- 71 万緑を突出る夜の電波塔
- 72 冷房の部屋に平和と愛の唄
- 73 百合揺れてなかったことにした話
- 74 同情と西瓜を切れば汁っぽい
- 75 錆びるよ錆びるよ残暑の横断歩道橋
- 76 ツクツクボーシ翻訳されることを拒否
- 77 夕暮の土手を逆毛のねこじやらし
- 78 新涼や念珠に一つ一つ穴
- 79 集合住宅用郵便受の蝨蠅
- 80 鶏頭が夜を含んでいたなんて
- 81 桃剥けば桃の秘密に手が濡れる
- 82 暁を巻いて朝顔知らん顔
- 83 秋の川むかし炭鉱あったとき
- 84 赤子やら冬瓜やらを抱き上げる
- 85 かなかなや町の迷路に肉提げて
- 86 芒束ねて忘却曲線上に居る
- 87 異性として愛する予定なき案山子
- 88 公団の隅に柘榴の乾きゆく
- 89 テレサ・テン歌えば小鳥溢れ来る
- 90 がま口の留金あたりが鳴る秋思
- 91 傷ついた甘藷の本性は黄色
- 92 共犯を書き出してゆく夜長かな
- 93 火星めく果実のやわらかく冷ゆる
- 94 ジェットコースターがくんと重陽の海へ
- 95 流星になるはずだった烏瓜
- 96 鵜来て去って白煙立つ火葬場
- 97 一位の実あまく機体の腹しろく
- 98 雀蛤となって夕餉の良い匂い
- 99 月光を君と白虎でいることよ
- 100 その藤の実の弾け飛び朝近し

